



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆ 特集 ◆ 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の実施にあたって ～ 4.17 (前日) までにしておくこと ～

子どもたちの力が十分に発揮されるよう次のことを再度確認し、徹底していきましょう！

● 学校における実施体制の確認

- ・調査責任者（学校長） → 学校における調査の責任者として、調査を実施します
- ・学校担当者 → 調査責任者を補佐し、調査実施のための実質的な作業を行います
- ・教室監督者（学級担任等） → 調査実施時に各教室において監督を行います

● 「平成 29 年度全国学力・学習状況調査 調査マニュアル」を熟読

- ・調査責任者および学校担当者は、校種に応じた「平成 29 年度全国学力・学習状況調査 調査マニュアル」を熟読して、調査の実施手順や方法をよく理解しておいてください。
- ・教室監督者は、「平成 29 年度全国学力・学習状況調査 調査マニュアル」とともに、「平成 29 年度全国学力・学習状況調査 調査マニュアル【教室監督者用】」もあわせて熟読して、調査の実施手順や方法をよく理解しておいてください。

4 月 18 日までの主なスケジュール

- 2 月下旬 ● 「調査マニュアル」等の受取
- ◆ 調査責任者は「リーフレット」を活用し、調査を受ける児童生徒及び保護者に対し、全国学力・学習状況調査の目的・内容等を十分周知してください。
- 「配送部数確認 FAX」の受取
- 4 月 3 日 ● 「学校質問紙」等の受取
- ～ 上旬 ● 「学校質問紙」の回答
- ◆ 調査責任者は、4 月 18 日までに「Web システム」にアクセスし、学校質問紙の回答を入力してください。
 - 小学校 → <https://www.gakuchousho.mext.go.jp>
 - 中学校 → <https://www.gakuchouchu.mext.go.jp>
- 4 月上旬 ● 「配送・回収連絡 FAX」の受取
- ～ 中旬 ● 配送部数等の確認（電話）
- ◆ 小学校（または、中学校）調査コールセンターより確認の電話連絡がきます。
 - ・「『問題冊子、解答（回答）用紙』等は届いていますか？」等
- 4 月 17 日 ● 問題用紙、解答（回答）用紙等の受取、確認、保管
- ◆ 配送物を確認し、調査責任者の責任の下で保管してください。
- 調査実施に向けての準備
- ◆ 児童生徒に対し調査の目的や内容、調査結果の取扱い等について説明してください。
 - ◆ 持ち物について連絡してください。
 - ◎ HB または B の黒鉛筆（シャープペンシルも可、ボールペンは不可） ◎ 消しゴム
 - ◆ 教室の環境整備
 - ・漢字一覧表等、調査への影響が考えられる掲示物を外す、裏返す等
 - ・調査に適した机の配置
 - ・不要な落書きがないか確認
- 4 月 18 日 ● 「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」実施



学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例24 菰野町立竹永小学校】

～ 自ら考え、学び合う子どもの育成 ～



竹永小学校では、「個に応じた指導を通して、基礎的・基本的な学習内容をすべての児童に確実に理解させ、習得させること」と「学ぶ側に立った学習方法や学習形態を工夫し、主体的に問題解決に取り組む児童を育成する」ことを目指し、算数科少人数指導を推進しています。



算数科習熟度別少人数指導（5, 6年生 算数科）の取組

- ・コース選択・・・レディネステストを実施 → 児童自身が既習の理解度を確認
- ・**じっくりコース** & **ぐんぐんコース** ともに基本的な学習内容や課題は共通
- ・単元の導入時に「これからどのような学習をするのか」を児童に提示
- ・ノートに「振り返り」を書かせる → 児童が自分の考えを整理することができる

一人ひとりの学びの
状況を把握し、個に
応じた指導ができる

じっくりコース

補充的な
指導

前学年までの既習事項の学び直し & 反復練習

- ・図や数直線の描き方を丁寧に指導
- ・表やグラフの見方、表し方を丁寧に指導
- ・問題における言葉の意味を噛み砕いて説明
→ 苦手意識が軽減 意欲 UP!!

知識・理解の定着が見られる！

* 児童の声 *

- ・おさらいができてよかった。
- ・わからないところを詳しく説明してもらえた。
- ・一つひとつの問題をじっくり教えてもらった。

ぐんぐんコース

発展的な
指導

発展的な学習や課題学習、 応用問題にチャレンジ！

グループで解き方を交流
→ より効率的に解く方法が考え出せる
友達の前で考え方を説明

思考力・表現力に伸びが認められる！！

* 児童の声 *

- ・説明が上手になった。
- ・自分のやり方を人に教えたり、伝えたり
することができた。

主体的な
学びを支援

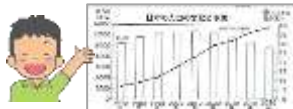
例えば・・・ 6年生算数「資料の進め方『いろいろなグラフ』」の学習において

《めあて》日本の年齢別人口やグラフを読み取ろう

* 教科書のグラフを読み取れるようになる

「日本の人口の変化と予測」
→ 棒グラフと折れ線グラフを
別々に表したものを提示

「日本の年齢別人口」のグラフ
→ グラフの向きを変えて提示
既習の「柱状グラフ」と同じ



《めあて》日本の年齢別人口をもとに、 竹永地区の特徴を考えよう

* 教科書のグラフを読み取った後、自分たちの住んでいる
地域の人口グラフを読み取る学習へと発展

- ・身近な情報をもとに、日本の人口と比較
→ 自分の住んでいる地区の人口の動態を
整理する
→ 自分たちが住む地域の今後の特徴を
社会的発想で捉えることができた！



単元ごとに定着状況を検証 → ワークシート等を活用

校内体制の確立

- 年度当初に「習熟度別少人数指導推進計画」を作成
・全教職員で共有 + 保護者にも周知
- 学期ごとに取組の検証等を行う
→ 以降の取組について全教職員で協議！
- 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの
結果に基づく授業改善、ワークシートの活用
・全教職員で全国学力・学習状況調査
& みえスタディ・チェックの自校採点に取り組む
→ 分析した結果に基づき、
弱みを克服するために授業改善！
・単元のまとめで、関連するみえスタディ・
チェックの過去問やワークシートを活用

習熟度別少人数指導推進計画

1. 基本方針
2. 実施計画
指導体制について 指導方法について
検証について 校内研修会について

- ① 問題文を読み込み、必要な情報を
判断し、イメージをつかませる。
- ② 線分図や絵などを活用したり、用語を
理解し使えるようにしたりする。
- ③ 継続して取り組んでいる算数的活動や言語活動、
考えを作り出すためのノート指導を充実する。

授業改善の
3つの切口！

●●● 菰野町立竹永小学校長からのコメント ●●●

本校では、「学習内容がわかる。勉強することが楽しい。」と感じる授業づくりをめざしてきました。本年度は「わかる授業」促進事業の指定を受け、算数科の習熟度別少人数により、子どもたちの学ぶ楽しさを追求してきました。一人ひとりの学びの状態をしっかりと把握した授業づくりと学習意欲の好循環が学力の向上につながってきています。また、学力向上の基盤となってくるのが、本校の課題にもなっている生活習慣及び学習習慣の確立です。コミュニティ・スクールを活用し、学校・家庭・地域が一体となって生活習慣の改善に引き続き取り組んでいきたいと思っています。

PART 1

年間を通じて計画的な指導改善の取組

～ 4. 18 全国学力・学習状況調査にむけて ～

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握・分析し、見えてきた成果や課題を検証するとともに、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるものです。また、学習指導要領を踏まえた授業が日々実践され、子どもたちが確実に力を付けているかどうかを検証する指標の1つにもなります。

子どもたちの頑張りが目に見える形で表れるよう、今、できることに取り組みましょう。

●●●各校での取組モデル●●●

2月中旬
3月

●「三重の学-viva!!」セット 第7弾

●みえの子どもたちのつまずきに対応した新ワークシート配信

活用例

- ・年度末の授業で、1年間の総復習として → 今の自分の**学習状況が把握**できる
- ・各領域のワークシートを組み合わせ → 調査と同様の時間配分で問題を解く**ペースが掴める**
- ・春休みの「家庭学習の課題」として → **計画的に学習**が進められる
→ 時間を確保して**じっくり**取り組める

4月上旬

●学力向上通信「三重の学-viva!!」4月号

- ◆ 平成29年度全国学力・学習状況調査の実施にあたって
- ◆ 県内実践事例紹介 等

Let's try!!



4月11日

●小中学校長研修会

- ◆ 次期学習指導要領を踏まえた全国学力・学習状況調査の重要性と実施後の活用について 等

4月18日

●平成29年度全国学力・学習状況調査 & 平成29年度第1回みえスタディ・チェック

- ◆ 対象学年：小学校6年生・中学校3年生
- ◆ 実施教科：国語・算数・数学

- ◆ 対象学年：小学校第4学年・第5学年
- ◆ 実施教科：国語・算数・理科

※ 調査実施後、文部科学省へ送付する前に
解答用紙をコピー
(取り扱いに十分ご注意ください)

- ◆ 対象学年：中学校第1学年・第2学年
- ◆ 実施教科：国語・数学・理科

授業改善サイクル支援ネットによる、自校採点結果の入力

→ リアルタイムに学習状況を把握し、早期からの授業改善に活用

4月24日、
25日
(予定)

●全国学力・学習状況調査自校採点研修会

- ◆ 「**自校採点 → 分析 → 改善**」に結び付ける
調査問題を解き、「解説資料」を参考に採点、分析

解答類型に分けることで、
子どものつまずき・課題を把握

採点を通して、教員が学習指導要領を踏まえた学習内容を理解できる

4月下旬以降

- ◆ 自校採点結果分析から見えてきた課題を踏まえ、**早期からの授業改善の方策**について
全教員で協議し、共通認識を図る
- ◆ 課題となった学習内容や領域に対して**重点的に指導**

過去の問題、みえスタディ・チェック、
ワークシート等により課題が改善されたか確認を！

Topic

保護者に対する調査

- **調査の目的** 家庭状況と児童生徒の学力等の関係について分析するために、児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等に関する調査を実施する。
- **調査対象** 無作為に抽出された公立学校において、本体調査を受けた児童生徒の保護者
(全国で小学校1200校程度、中学校800校程度を無作為に抽出)
- **調査実施日** 平成29年5月の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な期間
(今後のスケジュールについては、文部科学省のHPにて確認してください)



わかる授業づくりをともにめざして

南勢教育支援事務所の取組

南勢教育支援事務所は、多気町・明和町・大台町・玉城町・大紀町・南伊勢町・度会町・鳥羽市の全小中学校52校を担当しています。学校長から学校の状況を聞き取り、課題を共有しながら、日々の授業力向上のための支援を行っています。また、各市町等教育委員会や度会郡指導主事室と連携を図り、学校の取組への支援について、同じ方向性で取り組むことを大切にしています。

学校に寄り添った支援をめざしています

◆ 日々の授業における支援

- ・ 研究授業だけでなく、平素の授業を参観し、振り返る機会を持つ。
- ・ 若手教員からベテラン教員まで、すべての教員が自分の授業を振り返る機会を持つ。
- ・ 授業の良いところ、改善点等について、継続的に意見交換をし、授業改善につなげる。
- ・ 落ち着いて学習ができる「学級づくり」、「授業づくり」の視点からの支援をする。など



◆ 校内研修等への支援

- ・ 授業研究における指導案作成に係る助言や、子どものようすや変容をもとにした授業改善のポイント等を助言する。
- ・ 言語活動の充実や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についてのプレゼンテーション等を行う。など

市町等教育委員会、郡指導主事室との連携を大切にしています

◆ 各市町における校内研修担当者等会議への支援

- ・ 学力向上に向けた3点セットの活用意義についてプレゼンテーション等を行い、利用促進を図る。など

◆ 市町等教育委員会、郡指導主事室の指導主事と連携した支援

- ・ 授業研究に係る要請訪問において、指導案検討や研修会等における指導助言を協力して行い、各校のめざす研究テーマ達成に向けての支援を行う。
- ・ 定例の指導主事連絡会議（多気郡）に参加し、情報交換や学習会等を行いながら、同じ方向性で各学校を支援する。など



次年度へ向けて

- 各学校のニーズに応じた、かつ、質の高いオーダーメイドの支援を行う。
- 現行学習指導要領に示された、「めあて・振り返り」の提示について、達成できている点とできていない点を明らかにしながら、質の向上に向けての支援を行う。
- 育成すべき資質・能力をふまえた授業改善や、各教科における見方・考え方を大切にした授業づくりへの支援を行う。
- 3点セットの活用促進を図り、客観的なデータを生かした授業改善のための支援を行う。
- 次期学習指導要領を見据えた授業づくりについて、市町等指導主事との連携を図る。



先生の声

- ・ 年間を通して日常の授業を継続して参観してもらうことで、めあて・振り返りの設定や見通しを持たせることの大切さを意識した授業展開を常に心がけることができました。
- ・ 学校の雰囲気や授業の変化等、改善された部分を多数評価してもらい励みになりました。
- ・ 喫緊の教育課題に関するプレゼンをしてもらい、国や県が推進する取組や方向性を全教職員で共有することができました。
- ・ ワークシートや学 Viva セットの具体的な活用方法等を紹介してもらい、児童の学力向上だけでなく、自身の授業改善にも生かしていると思いました。
- ・ 実際に PC を使って、授業改善支援システムの操作方法や活用方法を教えてもらったので、今後積極的に活用していきたいです。